

2026年 3月 23日

報道機関 各位

長崎大学ロケットサークル NUSE が大会最高賞（日本一）受賞 第 22 回種子島ロケットコンテスト

2026年3月5日（木）～9日（月）、JAXA 種子島宇宙センターグラウンドにおいて、「第 22 回ロケットコンテスト」が開催され、長崎大学ロケットサークル NUSE が大会最高賞を受賞しました。この大会は宇宙航空研究開発機構（JAXA）等の主催により、日本の宇宙開発人材育成と宇宙開発利用の普及啓発などを目的として、毎年、全国の大学などから多数のチームが参加して開催されているものです。

本コンテストには、定められた規格に則って製作したロケットの到達する高度などを競う「ロケット部門」と、同じように一定の規格に基づいて作られた人工衛星模擬モデル（Can Sat）の自動動作の正確さを競う「Can Sat 部門」があり、NUSE は両部門にエントリー。ロケット部門では、1074 フィート（327.36 メートル）を記録し、「高度種目」で優勝。さらに Can Sat 部門では「審査員特別賞 チーム賞（宇宙技術開発賞）」を受賞。これらの成績を受けて、「各種目で優勝のモデルロケット・Can Sat デザインのうち、次回以降の参加者が目指すのにふさわしいものに与える。」と定義される大会最高賞の「ロケットコンテスト大賞」に輝きました。

▶ロケット部門

ロケット発射台に、機体をまっすぐに飛ばすためのガイドパイプを上から下まですっぽりと塩ビ管で覆い効率よく発射時の推進力を得るといふ、新方式を開発。さらに機体も先端部、火薬が燃焼する尾部、翼のみを 3D プリンターで製作し、胴体部分は軽いバルサ材の骨組と薄いポリプロピレンシートのシェルから構成される軽量シェル構造を採用するという、過去にない方式を開発。発射台、機体ともに、新しい工夫を盛り込んで高度種目優勝を獲得しました。

▶Can Sat 部門

30m ほどの高さから模擬人工衛星を落下させ、地上に降りた地点から、遠隔操作などせず、全自動で目標物までたどり着くという競技。本番では完走は果たせなかったものの、パラシュート開傘から着地、走行までの一連のシーケンスが円滑に動作したことから「審査員特別賞 チーム賞（宇宙技術開発賞）」が贈られました。

【本リリース・ご寄付に関するお問い合わせ先】

内堀 洋 工学部 機械工学コース 教授 e-mail : uchihori@nagasaki-u.ac.jp

参考

【長崎大学ロケットサークル NUSE】

2017年発足。長崎大学公認サークルであると同時に、工学部機械工学コースの公認サークルとして、工学部の学生を中心に、現在、部員数15人で活動。発足以来毎年、大会参加を目指して活動している。顧問は内堀洋 工学部機械工学コース教授。



コンテストに参加したロケットと Can Sat 本体（サークルサイトより引用）

長崎大学ロケットサークル NUSE の活動報告はこちら



長崎大学ロケットサークル NUSE SNS



コンテストでのロケット打ち上げの様子はこちら

